

受験番号

2026年度入試

神戸国際中学校 A—I選考

## 国語

(2026年1月17日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

□ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(本文の一部表記を改めたところがあります。)

私たちのまわりには、いろいろな動物が住んでいます。こういう動物たちも「ことば」を持つているのでしょうか。みなさんは、アリを観察したことがありますか。甘いケーキのかけらなどを落としておくと、しばらくするとたたくさんのアリがそのまわりにむらがつて、せつせとそれを巣の方向へ運んで行くのが見られます。巣へ戻るとちゅうのアリが、巣からやってきたアリと出会うと、二ひきはしばらく立ち止まってなにかをはなしているように見えます。まるで道を教えてやっているようです。アリも「ことば」を持つているのでしょうか。

動物学者が調べたところでは、①つぎのようなことがわかっています。まず最初に、一匹きのアリが甘いものが落ちていたのを発見します。そうすると、そのアリは巣の方へ戻りはじめますが、そのときアリの脚の先から、ある特別なにおいのするものがでてきます。それでアリの巣まで戻ったときには、巣と甘いものとの間には、一本の「においの道」ができてあります。巣にいたアリたちは、この「においの道」をたどって、甘いもののあるところまで行くというのです。人間のことが耳に聞こえる音や、眼に見える形によって成り立っているのとはちがって、アリのことばは、においによっているというわけです。

においは、私たちの身近な犬や猫にとっても、大切なことばです。町を歩いていると、犬や猫が電柱や a カベにおしっこをしているのを見かけることがあります。私たちは「おぎょうぎが悪いなあ」と思うでしょ

うが、(A)、ここは自分が通りましたよ、とか、このあたりは自分の住んでいるところですよ、ということを知らせるための大切な b 印だそうですね。私たちは、ふつう決まった家に住み、ふだんはいつものかよいなれた道を通って生活しています。犬や猫たちも、②その点では私たちとそんなに違いません。(もしかしたら、私たちのほうが、犬や猫と似ているのかもしれませんが。)

犬や猫は、しっぽの動きでも、いろいろなことを伝えますね。ペットとして犬や猫を飼ったことのある人なら、しっぽのかっこうで、犬が喜んでいるとか、猫が怒っているかが分かるはずですよ。面白いのは、犬はうれいしときにしっぽを振りますが、猫がしっぽをピンと立てて先をピクピク動かすのは (X) ときです。動かし方はちよつと似ていますが、意味は反対になってしまいます。犬と猫は昔からあまり仲がよくないものと言われ、どうして仲が悪くなったかという「なぜなぜ話」もあるくらいです。でも、幼いときからいっしょに育てると、同じ家で仲よく暮らすこともあるそうです。そして、そんなときには、おたがいに相手の身振りの意味を理解するようになるといいます。犬や猫でも、「外国語」を学べるわけです。

(中略)

私たちは、動物たちのなかにも「ことば」をもっているものが出て、生きていくために必要なことを、おたがいに伝えあっているらしいということを見ました。(B)、このような動物たちの「ことば」は私たち人間の「ことば」と同じものでしょうか。

動物たちの「ことば」と私たち人間の「ことば」の間には、たいせつな違う点がいくつかあります。(C)、アリやミツバチは、どのようにして「ことば」を身につけるのでしょうか。お母さんのアリが子どものアリに向かって、えさを見つけたときにはこうするのですよ、と教えているというのは、考えてみただけでもほんとうにほほえましいcコウケイです。でも、じつさいには、③アリのお母さんはそんなことをする必要はないのです。アリであれば、えさを見つけると、足の先からおいのするものが自然に出てくるというふうに、生まれつき仕組みられているのです。ミツバチの場合も、お母さんが子どもの手足をとって、ダンスの仕方を教えてやるというわけではありません。

人間の「ことば」は、こういうふうにはいきません。私たちが日ごろ使っている日本語ですと、まるで生まれつき身につけていたように思えるかもしれませんが、たとえば、どういう場合に「アニ」といって「オトウト」とはいわないのか、などということは、みんな私たち自身が他人から教えられたり、あるいは、他の人が使っているのを見たり聞いたりして学びを知ったのか、どちらかです。ひとりでに使えるようになったというわけはありません。このことは、外国語を身につける場合を考えてみれば、はつきりするでしょう。

動物たちは「ことば」の勉強をしなくてすむからいいな、などと思っではいけません。動物たちはたしかに人間のように、努力して「ことば」を学ばなければならないということはありません。しかし、その代わり、動物たちは、いつも、そしていつまでたっても、同じことしか伝えることができないのです。

それからもうひとつ、動物の「ことば」は、いま、ここにあることから

を伝えることはできませんでしたが、「いま」と「ここ」を越えたもつと広い世界のことから伝えることはできないでしょう。たとえば、アリたちは、アリの「ことば」で、三日前に見つけたケーキがとても甘かったこと、明日はきつとおいしいものを見つけないぞ、などといった気持ちを伝えることができるでしょうか。とてもできないことです。

動物の「ことば」の仕組みは、生まれつき身にdソナわっています。その代わり、動物たちには、もともと生まれつき定められたことしか、表したり、伝えたりすることができないのです。動物の「ことば」は、動物たちをせまい世界の中に④閉じこめています。

私たち人間の世界は、このように閉じたものではありません。人間の「ことば」は、「ここ」「いま」のことからをはるかに越えて、過去のことでも、未来のことでも、そしてじつさいにはありえない想像上のことであっても、表し、伝えることができます。人間は「ことば」を学ばなければならぬ代わりに、学べば学ぶほど、新しい言いまわしを身につければつけるほど、世界が広くなつていきます。そして、さらにすすんで、もし新しい外国語を身につけたとしたら、私たちの世界はどれほど広くなることでしょうか。私たちのほうでその気になれば、人間の「ことば」は私たちをいくらでも広い世界へと連れていってくれます。

私たちがなんの気なしに使っている「ことば」——その「ことば」は、私たちにとってほんとうに、深い深いかわりをもっているのです。

(池上嘉彦 『ふしぎなことば ことばのふしぎ』)

問1 || a、dのカタカナは漢字に直し、漢字はひらがなで読みを答えなさい。

問2 (A) (C) に入る言葉として適当なものを次のア、オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば    イ でも    ウ もし  
エ だから    オ じつは

問3 ① 「つぎのようなことがわかっています」とありますが、どのようなことがわかっているのですか。「〜こと。」に続くように、本文から十七字で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問4 ② 「その点」とありますが、どのような点ですか。三十五字以内で答えなさい。

問5 (X) に入る言葉として適当なものを次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 楽しんでる    イ 怒っている  
ウ 興奮している    エ 喜んでいる

問6 ③ 「アリのお母さんはそんなことをする必要はない」とありますが、どうしてですか。五十五字以内で答えなさい。

問7 ④ 「閉じこめています」とありますが、これはどういうことですか。適当なものを次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 動物は、生まれたときから、伝えたり表現したりする内容に変化がないということ。

イ 動物は、新しい単語を覚えたり、使い方を学んだりしなくてもいいということ。

ウ 動物は、外国語を学ぶ機会がなく、別の種族の動物と話すことができないということ。

エ 動物は、文字を使うことなく、鳴き声や身振りだけでしか物事を伝えられないということ。

問8 本文の内容として適当なものを次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ミツバチは、母親から手取り足取りダンスを教してもらい、踊れるようになる。

イ 新しい言葉を身につけることで、犬や猫も外国語を話すことができるようになる。

ウ 犬や猫はたとえ一緒に暮らしていたとしても、お互い理解し合えることは全くない。

エ 人間の「ことば」は、今の場所を越えて見えない場所のことや、ありえないことも伝えることができる。

□ 次の本文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(本文に一部表記を改めたところがあります。)

日本人の血を引くブラジル人の母と日本人の父との間に生まれた小学六年生のリナは、現在は母と二人暮らしで、日本語があまり話せない母とのコミュニケーションの取り方に悩んでいる。そんなとき、家の近くで「コスモス祭り」が行われた。

屋台村に並ぶ※移動販売車には、おなじみのお好み焼きやタコ焼きだけでなく、ブラジルのシュラスコやトルコのケバブ、台湾のタピオカにインドのカレーとナン、メキシコのタコス、韓国のチヂミ、ベトナムのバイン・ミー、ドイツのフランクフルト、フランスのガレット……世界中の食べ物がある。

それがコスモス祭りの特色でもあった。「コスモス」はラテン語で「宇宙」を意味する言葉で、花びらが整然と形良く並んでいるところから、これはまさに※秩序のある宇宙ではないか、と名付けられた。同じ語源を持つ言葉に「コスモポリタン」がある。国家や民族を超えた、同じ地球の仲間、世界市民、国際人―お祭りの実行委員会は、戦争や衝突の絶えない現実の地球が少しでも平和になってほしいという願いを込めて、世界各国の料理が味わえるよう、移動販売の業者に声をかけているのだという。

ゆうべリナは、お祭りのウェブサイトで①それを知った。出店する屋

台を確認するだけのつもりだったのに、むしろそっちの方を( I )読みふけてしまった。

お母さんは何も知らない。のんきに(ここで朝昼晩を食べたら、一日で世界一周できちゃうね)と笑うだけだ。教えてあげようかと思っただ、やめておいた。そういうのをなにも知らないのがお母さんのいいところかもしれない、と思ったから。

代わりに、土手道を並んで歩きながら、ウェブサイトに出ていたもう一つの話を伝えた。

「ねえ、知ってた？コスモスって日本にあった花じゃないんだよ(そうなの?)」

「うん。もともとはメキシコとか、中南米が原産なんだって。だから」ポルトガル語でどう言うのか知らなかったの、こっだけ日本語で「外来種だよ」と言った。

ふうん、とお母さんはA相槌を打った。思ったほど驚かなかったし、喜ばなかった。「外来種」という言葉がよくわからなかったのかもしれない。

コスモスが日本に来て広まったのは明治時代のことだった。「秋の桜」でアキザクラと名付けられた。遠い外国から来た花に、国を代表する桜の名前を付けるとは、昔の人のほうがいまより大らかで寛容だったのだろうか。でも、同じように長い旅をして日本に来たのに、※ナンベイカミツキガメや※セイタカアワダチソウとか名付けられなかった生き物や植物が、ちよつとかわいそうにもなった。

(このへんでいいかな)

お母さんは土手道から河川敷を下りて、コスモス畑の遊歩道に入った。さすがに会場のはずれまで来ると、人影は見当たらない。濃淡のある赤紫色の花が、お母さんの腰から下を隠して、(Ⅱ)コスモスの海に入っているみたいだった。

写真を撮っていたリナにお母さんは「写真なんてあとでいいから。こちにおいでよ」と声をかけて、「明日から忙しいんだから」と関係のない話を※唐突につなげた。

※惣菜工場の仕事は十月いっぱいまで終わるお母さんは、雇い止めが通告された翌日から新しい職探しを始めて、明日から三日連続で面接に臨む。仕事は、宅配便の配送センターの仕分け作業と、ビルクリーニングと、百均チェーンの倉庫の在庫管理。どれも、日本語が※堪能でもなくても、バーコードリーダーか体力があればこなせる仕事だ。

引越しは思いとどまった。あと半年で卒業するリナにすれば助かった。でも、引越しするならするで、わたしはかまわなかったんだけど――②そういうところが、やはり「日本人離れ」なのかもしれない。

遊歩道には、ところどころにベンチが設けられていた。その一つに並んで座って、晴れた空とコスモス畑をぼんやり眺めた。座って目の位置が低くなると、ほんとうにコスモスの海みたいに見える。

「明日の面接、緊張するなあ……」

お母さんのはのんびりした声で言った。半分面白がっている。初対面の人とおしゃべりするのを楽しみにしているのだ。ちよつと心配になったリナが「あんまり派手な服にしないほうがいいよ」とB釘を刺すと、はいはい、と苦笑交じりにうなずいて、続けた。

「やっぱり、日本に来たとき学校をやめなきゃよかった。そうすれば、

いまごろは、もつと日本語が上手になって……」  
「もつといろんな仕事ができた？」

先回りして訊くと、苦笑いを浮かべたまま、首を横に振る。  
「リナが大きくなくても、たくさんおしゃべりができる」

相槌を打ちそこねた。③息も止まった。

これから中学生になり、高校生になり、おとなになるにつれて、リナが生きる世界はうんと広がって、複雑にもなっていくだろう。自分の思っていることを言葉にするには、もうポルトガル語では無理だ。でも、日本語で話すと、今度はお母さんに伝わらない。

黙り込んだリナに、お母さんは「ごめん、へんなこと言って」と笑顔をつくり直し、リナの手に自分の手を重ねて、軽く振った。

「言葉がわからなくなったら、これでいい」

ポルトガル語で言って、日本語で繰り返す。

「これで、いい」

④握る力が強くなって、仕上げにリナの手の甲をポンと叩き、照れくさそうに立ち上がる。

「ちよつとだけ……いいよね？」

左右を見て誰もいないのを確かめてから、立ち入り禁止の畑の中に入っていた。

だめだよ、怒られちゃうよ、と言いかけたリナは、まあいいか、とスマホのカメラをお母さんに向けた。

お気に入りのGジャンを着たお母さんが、コスモスの海をずんずん進む。その背中が、頼もしそうにも、心細そうにも見える。

足を止めた。こっちに向き直って、手を頭上に掲げて振った。

コスモスの海は、赤紫色の数えきれない宇宙の集まりでもあった。海に包まれ、宇宙を背にして笑うお母さんは、やっぱり力強かったから。

リナはスマホの持ち方を変え、自分とお母さんを画面に入れ込んで、撮影ボタンを※タップした。

（重松 清 『かぞえきれない星の、その次の星』）

※移動販売車：自分の固定した店を持たずに、自動車などで移動しながら商品を販売する車の総称。

※秩序：ものごとが一定のルールや法則に従って整っているさま。

※寛容：心が広く、よく人を受け入れること。

※ナンベイカミツキガメ：主に南アメリカに生息するカミツキガメ属に分類されるカメ。

※セイタカアワダチソウ：キク科に属する北アメリカ原産の多年草。

※唐突：いきなりで、その場には合っていない様子。

※惣菜工場：ご飯のおかずを作る工場。

※堪能：その道にすぐれていること。

※タップ：押さえる。

問1 (Ⅰ)・(Ⅱ)に入る語を次のア～エの語群からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

I

ア ほんのり イ ぼんやり ウ じつくり エ かすかに

II

ア どれだけ イ なんだか ウ あれほど エ そんなに

問2 Ⅱ A・Bの意味として適当なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 相槌を打った

ア 顔を見てしっかりと話した。

イ 他人の悪い行いを見て学んだ。

ウ 話を合わせて受け答えした。

エ 間違いを知ってやり直した。

B 釘を刺す

ア 後で問題が起こらないように、強く注意をする。

イ 何があってもいいように、前もって用意する。

ウ どんなことがあると、最後までやり通す。

エ 悪いことが発生しても、負けない気持ちを持つ。

問3 —①「それ」が指し示していることを説明した次の文の( )に  
適当な言葉を入れて、文を完成させなさい。

お祭りの実行委員会が、( )をこめて、移動販売の業者に声をか  
けていること。

問4 本文では会話文が、へ くと「」に分かれています。そ  
の違いは何ですか。その答えとして、次の(a) (b)に適当  
な言葉を入れて、文を完成させなさい。

へ くとは、(a)で、「」は(b)という違い。

問5 —②「そういうところ」とは、どういうところですか。四十字以内  
で説明しなさい。

問6 —③「息も止まった」とありますが、どうしてですか。その理由の  
説明として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 娘とずっと一緒にいたかったという母の本音を、思いがけず聞いて  
しまったせいで、一瞬にして気持ちが冷めてしまったから。

イ 母が娘ともっと気持ちをわかりあって、たくさん会話をしたがって  
いたとは思ってもいなかったで、急に気づかされて驚いたから。

ウ 日本語で自分の気持ちを言ったことのなかった母が、いきなり日本  
語で娘への思いを述べたことに驚きを隠せなかったから。

エ 母が思いつめた表情で娘に対して、別れを予感させる言葉を述べた  
ことに寂しさを感じ、今後の生活に突然、不安を感じてしまったから。

問7 —④「握る力が強くなって、仕上げにリナの手の甲をポンと叩き、  
照れくさそうに立ち上がる」とありますが、このときのお母さんの気  
持ちの説明として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答え  
なさい。

ア 言葉だけで意味は伝えられるけれども、さらに手があたたかければ、  
母親独特の勘が働くので、何でもわかって安心だ。

イ 言葉が全く分からなくても母である以上娘の気持ちはだれよりも理  
解できるから、これからは動作で気持ちを伝えてほしい。

ウ あまり言葉の意味を理解できなくても、今まで手を握り合うだけで  
気持ちを確かできたのだから、これからも大丈夫だ。

エ どんなに言葉を尽くしても親子の愛情は伝えきれないので、今後は  
手を握りあうことで、お互いの愛情を確かめ合いたい。

問8 本文の内容の説明として適当なものを次のア～エから一つ選び、  
記号で答えなさい。

ア 言葉が通じず勤め先も失った母親の落ち込んだ気持ちを、娘が何げ  
ない心づかいでやわらげて、ふたりで前向きに暮らそうと決めている。

イ 美しく咲くコスモス畑を仲の良い母子が歩きながら、何気ない普段  
のお互いの様子を日本語とポルトガル語を交えながら語り合っている。

ウ 日本語の分からない母と、それを必死に助けていく娘が、何とか理解し合って、今後も母子だけで明るく生活していくことを確認している。

エ 日本語ができず、経済的にも不安を抱える母を、娘が今後の母との気持ちの交流に迷いを持ちながらも、あたたかく見守ろうとしている。

三 次の①～④の文の中の——線部の語句と用法が同じものを、次のア～ウからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 運動会が延期となった。

ア みんなと映画に行った。

イ 「嫌だ」と断られた。

ウ すでに中学生となった。

② 私の読んだ本。

ア 彼の書いた手紙を見た。

イ 快晴の空は気持ちがいい。

ウ その時計は君のだろう。

③ 絵を描く紙がもうない。

ア 私は何も飲まない。

イ いつものまにかアイスがない。

ウ こうなってしまうってなんと情けない。

④ 彼女はある日とつぜん出て行った。

ア あの猫はもう十歳である。

イ 彼は書店である本を見つけた。

ウ 山頂には神社がある。

四 次の①～⑤の四字熟語の（ ）の中に入れるのに適当な漢字を、

それぞれ一字ずつ答えなさい。

① 自（ ）自賛

② （ ）小棒大

③ 自（ ）自得

④ 心（ ）一転

⑤ 晴耕（ ）読